

令和3年度 鯖江高等学校(全日制) 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題(令和3年度)	改善策・向上策(令和4年度)
1 教育課程 学習指導 研修	<p>分かりやすい授業づくりに努める。 目標:授業改善に関する目標指数70%以上</p> <p>分かりやすい授業に関する目標指数80%以上</p> <p>学習手帳「みのり」等を活用し、家庭学習の習慣を定着させる。 目標:家庭学習の定着に関する目標指数70%以上</p>	<p>・授業理解と家庭学習の定着について 生徒の授業理解については、全学年で90.3%と昨年度より0.5ポイント上昇している。保護者の認識は生徒より約7ポイント低い。 家庭学習の習慣化について、平日1時間以上学習している割合は51.2%と目標指数に到達していない。学年ごとに見ると、1年生38.8%、2年生55.8%そして3年生63.9%と、学年が上がるほど割合が高くなっている。昨年度も同じ傾向があったが、昨年度(51.2%)と比べると、1年生の落ち込みが大きい。家庭学習の習慣があまりついていない1年生が、学年が上がるごとに学習習慣を身につけていく傾向にあると考えられ、入学当初の初期指導が3年間の家庭学習の定着に影響すると考えられる。</p> <p>・授業改善について プロジェクターを使い、資料集のグラフの解説、実験動画、題材のイメージを膨らませるための写真や動画、生徒のノート、グループ活動の結果発表、公式や文法を常に表示するなど、各教科・教員による積極的な利用が増えてきている。ICT利用についての教材の共有化を図る必要がある。</p>	<p>・授業理解と家庭学習の定着について 進路指導部と連携し、入学当初から、自分の進路について意識させることにより、生徒が家庭学習の必要性を理解し、主体的に取り組むことで、家庭学習の習慣を定着させ学力の向上につなげていく。そのため学習・生活・記録ノート「みのり」の積極活用を図っていく。 4月にはクラス生徒全員への個人面談を実施する。2・3学期はじめには気になる生徒への面談、考査終了後や心配な生徒には個人面談を適切にできるように担任・副担任・学年主任の連携を図る。 各課題提出状況を教科担当者と担任が共有し、生徒指導につなげる。 職員室の前の質問コーナーと放課後の自習室の活用を促し、個別指導の充実を図る。 帰宅時間について、各部顧問との連携を強化する。</p> <p>・授業改善について 授業力向上と生徒の思考・判断・表現力の向上を目指し、毎学期に授業公開期間(2週間)を実施する。 各教科の中で授業研究を進める。ICTについて、授業公開週間等を通じて、他の教科や教員のICT活用方法を学び、方法の幅を広げ授業改善に役立てていく。</p>
2 生徒指導	<p>正しい服装容儀が身につくようにする。 目標:正しい服装容儀が身につく目標指数95%以上</p> <p>保護者との連携により、遅刻者を減らす。 目標:遅刻に関する目標指数95%以上</p> <p>生徒間の支え合いを通したいじめ・問題行動の防止に取り組む。 目標:啓発、指導に関する目標指数90%以上 思いやり・助け合いに関する目標指数80%以上</p>	<p>生活指導部の取り組みの重点目標として例年同様、「正しい服装容儀を身につける」とした。保護者に対するアンケート結果では、「服装容儀を守っている(A+B)」が、97.1%(昨年度98.5%)とわずかに減少しているが、目標指数の95%以上を達成した。また、生徒が「風紀検査の再検査で不合格になった回数が年間1回以内(A+B)」は、98.3%(昨年度96.6%)と増加しており、正しい服装容儀で生活を送るという習慣はほぼ身につけてきている。生徒会執行部員と風紀委員による、ミニ風紀検査も生徒自身の意識を高める効果があり、正しい服装容儀で学校生活を過ごしている生徒がほとんどである。</p> <p>アンケートの結果で、保護者は「登校時間を守っている(A+B)」が、96.0%(昨年度96.9%)と目標指数の95%を上回った。また、生徒は「不注意による遅刻の回数が年間A:0回が89.8%、B:1回～3回が8.3%」と、3回以下の生徒が98.1%(昨年度98.3%)であり、目標指数の95%を上回っている。ただし、今年度と昨年度を比較すると、全校生徒数が増えたことで、割合的には同様の高い割合ではあるが、遅刻者の延べ人数が増えていることに対しては、注意喚起が必要である。</p> <p>「思いやりや助け合いの心を持って人に接しているか」の質問に対して、「できている(A+B)」は、保護者が93.6%、生徒が95.5%と、目標指数の80.0%は大きく上回っているが、「大変よくできている(A)」の回答は、保護者が37.3%、生徒が49.6%だけで、「おおむねできている(B)」の回答と値の差が小さいのはこの観点だけであることは、注意しておきたい。「みのり」を通して生徒からの声を聞いたり、いじめアンケートの実施により、いじめがあった場合は、すぐに担任、学年主任、教育相談担当者等が連携を取って対応し、大きいいじめに発展することを防ぐことができた。</p>	<p>例年どおり服装容儀検査は年間8回を計画している。容儀面ではよい傾向が継続している。教員に対するアンケート「服装・頭髪が気になる生徒に対して」では、「その都度積極的に指導した、まあまあ指導した(A+B)」という回答が、91.5%(昨年度95.3%)と減少しているが、校内であまり服装の乱れのある生徒を見かけなくなっている結果ではないかと考えている。今後も全教職員体制での指導を継続させる。来年度は、風紀検査不合格回数が多い一部生徒に対して、生活指導部・担任・保護者との密な連携を図り指導することで、正しい服装容儀での学校生活を徹底させる。また、ミニ風紀検査も十分な効果がみられたので、引き続き実施していく。</p> <p>遅刻者の延べ人数を減らすために、全教職員に割り当てる登校指導(朝当番)を継続し、いろいろな先生方から生徒に対して声かけを積極的に繰り返す。また、生徒会執行部の生徒と協力し、予鈴前登校の運動(あいさつ運動)を展開させる。あわせて、保護者との連携をとって、遅刻者を減らす。</p> <p>教員に対するアンケートにおいて「生徒に思いやりや助け合いの心を持って人に接するなどの指導や積極的な生徒の声かけを行った(A+B)」は、93.6%(昨年度97.6%)で目標指数の90%を上回っている。いじめ・不登校・問題行動について、今後も発生した際には、マニュアルに従い、関係する教員間の連携、保護者との連携を密に図って迅速に対応し、問題点を追及して防止できるよう取り組んでいく。</p>
3 進路指導	<p>進路学習などを通して、進路情報を提供し、適性にあった進路目標の早期設定に努める。 目標:進路情報の満足度に関する目標指数80%以上 進路目標の設定など進路意識に関する目標指数が80%以上</p> <p>就職・進学試験に向けての面接指導・作文指導を充実させる。 目標:面接・作文指導に関する目標指数が85%以上</p>	<p>アンケートの結果、「必要な進路情報を入手できた」との回答がA+Bで生徒が86.5%、保護者が92.7%で目標の80%は達成できており、特に3年生の満足度は生徒も保護者も95%を超えており極めて高くなっている。学年会や進路指導部が進路情報誌の配付や外部講師を招いて講演を行ったり、オンラインによる進路ガイダンスや保護者対象分野別説明会などを実施したりした結果と思われる。 「進路目標の設定」に関する調査はA+Bで生徒が88.6%、保護者が89.3%で高い割合を占めている。進路指導部・担任を中心に、ロングホームや学年集会などを利用して進路意識の向上に努めた結果が現れたと思われる。</p> <p>今年度も、就職希望者には2学年の3学期から少しずつ指導を行い、3年になってからは求人票の見方や履歴書の書き方、面接指導などを外部の産業コーディネーターにも協力を依頼して行った。進学希望者には担任や学年会による面接・小論文の指導を高校総体後の3年6月から実施し、9月からは全教員が数名の生徒を担当し、個別の面接・小論文指導を行った。 全校体制での指導の形態は例年確立されており、特にベテラン教員と若手教員のペアや異なる教科でグループを作って行う模擬面接は大きな成果を上げている。ほとんどの教員が「積極的に指導した・まあまあ指導した」と答えており、積極的な姿勢で取り組めた。評価も面接・作文指導が「大いに役立っている」「概ね役立っている」の合計は生徒が99.2%、保護者が98.6%と大変高く評価している。今後もこの指導体制を続けていきたい。</p>	<p>生徒も保護者も進路情報の提供に対する評価が、3年生と比べて1、2年生はやや低い傾向にある。1、2年生は探究科ができて、普通科の中にも各コースができたことで多様な進路希望を持った生徒が増えた。そのため、今まで以上に詳しい進路情報をタイミングを見計らって出していく必要がある。 さらに、昨年同様に担任との連携を密にして、総合的な探究の時間やスタディーサポートの結果を利用して、進学・就職の意義をより深く理解させ、生徒の進路に向けての意欲を高める。また、課外授業、模擬試験の重要性を理解させ、模擬試験の事前指導、事後指導を行うに当たり、デジタルサービス等の活用法を担当・生徒に周知し、充実した進路指導に努める。</p> <p>昨年度より警察、消防、自衛隊への就職を希望する生徒に対して、3年の夏に校内説明会を実施している。それぞれの職員の方に来ていただき話を聴くことで情報を得たり、今何をしておかなければならないかを知ったりできるので大変有益だった。このことが面接試験にもつながったと思われる。来年度は多様な進路希望に対応させるためにも対象を1、2年生にも広げたい。 進学希望者に対する面接指導も生徒や保護者から高い評価を得ているので、来年度も時期を早めて回数を増やすなど改善できるところは改善して引き続き行いたい。また、可能な限り、大学実施のオープンキャンパスや医療体験・ボランティア活動に積極的な参加を促し、志望動機や小論文・面接での内容の充実を図りたい。</p>

<p>4 保健・安全管理</p>	<p>健康管理について、生徒に啓発を行うとともに、その指導を充実させる。 目標：日常の健康管理についての啓発、指導に関する目標指数70%以上</p> <p>安全・美化に対する意識を高める指導を充実させる。 目標：安全・美化に関する目標指数80%以上</p> <p>生徒が困ったときに適切に対応する。 目標：適切な対応に関する目標指数70%以上</p>	<p>昨年度に引き続き新型コロナ感染症対策に重点をおいた保健指導を行った。保健室たよりの作成に加え、始業式や終業式の際、養護教諭による保健講話を実施するなどし、新型コロナに対する正しい知識と予防策などについて指導した。生徒・保護者ともに90%以上から十分満足な回答を得られた。 安全・美化に関しては、新型コロナ感染状況を見ながら全校一斉の避難訓練を実施することができた。毎日の清掃は、全教職員が各清掃箇所での指導を継続し、学校美化に対する生徒の意識向上に努めた。生徒が快適な環境で過ごしているとする回答が96.8%であった。また、学期に1回ずつ教職員による安全点検を実施し、危険な箇所や修繕の必要な箇所をチェックしている。 心や身体に不安・悩みを抱えている生徒に対しては、相談室と保健室が連携をし、担任との情報交換も密にしながら問題の解決を探った。対応に満足しているとする回答は、生徒が92.8%、保護者が93.4%となった。</p>	<p>来年度も今年度同様、日常生活から健康管理や疾病予防の指導・啓発を図るために、生徒や保護者への情報提供に努める。新型コロナ感染予防については、国や県の指針に応じながら、その都度状況判断して対策を講じていく必要がある。また、生徒の健康の自己管理能力を高めることも必要である。 生徒・教職員に対する救急法講習の開催、時期に応じた感染症予防の情報提供に努める。また毎日の清掃指導体制を維持し、環境美化に努める。クラス内だけでなく、部活動内での人間関係を悩む生徒が急増しているため、部活動顧問との連携をさらに密にし、問題の早期解決ができるよう、スクールカウンセラーによる面談等を利用しながら適切な助言を行う。</p>
<p>5 図書指導</p>	<p>読書意欲を啓発し、図書館利用を促進する</p> <p>目標：読書意欲の啓発に関する目標指数80%以上 読書に親しむことに関する目標指数70%以上</p>	<p>生徒の年間読書量については、「私の読書量」は、1年間で「A(5冊以上)B(3~4冊)」と答えた生徒が昨年度は65.3%であったが、本年度は62.2%と約3ポイント低下し、目標の70%を下回った。また、教員による読書意欲の啓発は78.7%と、目標の80%を下回った。このことから、生徒の読書量の低下は教員による読書意欲の啓発が低下したことによると思われる。 ただし、保護者の「お子さんは、広い意味での読書(新聞・書籍・電子書籍など)に親しんでいる。どちらかと言えば親しんでいる。」との回答は62.6%と、前年度の59.8パーセントを上回った。生徒の学校での読書量は減少したが、家庭では増加しているため、家庭での読書が学校での読書量の増加につながることを期待したい。</p>	<p>今年度は1学期より朝読書を開始することができたが、学期を経るにつれて朝読書開始後に登校する生徒が見られるようになり、朝読書中に読書以外のことをしている生徒が見られたりしたため、来年度は朝読書に集中できる環境づくりに努めたい。また、そのためには教員の読書指導に対する意欲の向上が不可欠である。読書指導の徹底に向けた教員の協力体制の構築にも努めたい。 事前の図書委員会による本の準備の連絡、おすすめ本の紹介など広報活動を充実させ、読書への意欲を高め、読書の推進に努める。 今後も、「図書館だより」で図書館情報を提供し、図書館の本を階段踊り場や図書館横の掲示板で紹介していく。また、館内のコーナーでは、棚作りなどにより新刊本や話題の本などを展示して宣伝する。</p>
<p>6 地域に根ざした学校づくり</p>	<p>地域の文化や産業を題材とした探究活動を推進する。 目標：授業での活用に関する目標指数60%以上 地域に関する興味関心に関する目標指数50%以上</p> <p>ホームページの充実を通して最新の広報に務める。 目標：更新に関する目標指数70%以上 HPの満足に関する目標指数60%以上</p>	<p>地域の文化や産業を題材とした探究活動を推進していく活動について、昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルスの影響により、活動そのものに制限があったが、昨年度よりも地域との協働活動を充実させることができた。その結果、生徒が地域に興味を持った結果が(A+B)で64.9%で、昨年度と同様に目標を達成し、また、保護者が生徒と地域の話題について話している結果が(A+B)で62.1%と、昨年度よりも4.8ポイント上昇した。しかし教員が授業で地域教材を活用した結果が(A+B)で53.3%と、昨年と変わらない結果となり、目標値に達することができなかった。 個々の教員がホームページ更新に協力する割合は46.8%と低い。特定の教員がホームページ更新をしていることが要因と考えられる。ホームページ更新に関わる教員数を増やし、一人ひとりの教員がそれぞれ担当する分野の情報を気軽に発信できる環境を整えていく必要がある。 保護者の「学校はホームページの充実につとめていると思う。」について、よく当てはまる・やや当てはまるが、併せて67.1%と昨年度と変わらない。学校行事や部活動、高校再編などの情報を逐次発信してきた成果であろう。また、「ホームページを見たことがないのでわからない」と回答している保護者が全校で8.4%と、前年度の13.5%から5.1ポイント減った。今後も保護者にホームページを見てもらえるような啓発活動を行いたい。</p>	<p>文部科学省による「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定が終了するが、地域との協働による教育活動は継続していく。鯖江市および鯖江商工会議所との連携、仁愛大学との連携をこれまでどおり継続し、新たな活動なども模索し、学校全体で地域協働活動に取り組んでいく。 また教員が授業で地域教材を活用していくよう、各教科ごとで検討し、実施していく体制を強化していく。 ホームページを見る機会を増やすために、学科・コースの特色ある活動や学校行事、部活動など興味のある情報を掲載し、更新頻度をさらに上げて保護者・地域の方がホームページから鯖江高校の情報を閲覧できるように努める。また、行事予定等の変更などをスピーディーにアップする。 学科コース、校務分掌、部活動など、できるだけ多くの情報を発信できるよう、校内に働きかけていく。</p>